

活動テーマ・・・木の探求

対象・・・4 歳児クラス

【テーマ設定の理由】

『自然の中で遊びぬき、多くの体験をしていく自然の中で遊びぬき』と保育理念にあるように、普段から自然を感じられる環境での活動を大切にしています。
お散歩では近隣の武蔵野の森公園、野川公園にて、木登りをしたり、林の中でのかくれんぼをしたりなど木を身近に感じながら遊んでいます。
そんな中で、子どもたちから、「公園の中に生えている木それぞれの違い」「葉っぱや木の実の違い」に気がつく声があがりました。
夏には虫のお家となり、秋には木の実を沢山落としてくれる木たち。
子ども達にとっては大切な遊び道具となっている「木」についての探求を深めてみることにしました。

【活動スケジュール】

①「気になる木を見つける」

・・・日々の散歩の中で木を観察してみる。

観察した後に、気になる木や木の実などを図鑑などで調べてみる。

②「木がたくさん生えている場所を見たい」

・・・木への親しみがさらに深まった子どもたちの声を受け、

職員で森を体感できる場所を探す。奥多摩の森と市庭と出会い、

専門的な力を借りて子ども達に「木」を伝えてもらう事になる。

実際の森の中に入り、木こり体験を行わせてもらい、

大きな木を一本切り倒す。

③「木から物ができる」

・・・木こり体験をした木から組み木の遊具を作る。

子ども達もやすりをかけ、塗料を塗る、木の加工に参加する。

【活動の為に準備した素材や道具】

気付きや発見があった時に、子どもたちがすぐに調べられるように、図鑑を用意した
気からで出来ている玩具で遊び、木からの加工にも興味を持てるようにした

活動の内容 子どもの姿や声

公園に生えている木の幹の触り心地や、木の実、木の名前に興味を持ち、
図鑑などで調べていると、それぞれお気に入りの木が出来た。

木に対してさらに親しみを持つようになる。

子どもたちから「木はどこに生えているの?」「他にもどんな木があるのかな?」

と声があがるようになり、職員で【子どもたちを連れていける森】を探したところ、

【森と市庭】を見つける。木の知識を子どもたちにもわかりやすく伝えてくれる

森と市庭さんの力を借りて、更に木への探求心を深めてもらいたいと考え、

実際に奥多摩の森と市庭に行き、森を体験してみることに！

公園よりもたくさんの木に囲まれ、【森】を体感した子ども達。どんな木が生えて
いるか、どうやって大きくなっているのか…教えてもらう話によく耳を傾けていた。

森と市庭では木こり体験も行い、切ったばかりの木の幹にも触れさせてもらう。

「大きい!」「いい匂い!」「ざらざらしてる」など五感を使って木を感じていた。

そこから、さらに興味は「木から出来ているもの」へと広がる。

森と市庭で切り倒した木は「この後どうなるのかな～」と興味がわいてきた

子ども達。身近な物ではテーブルや椅子、保育園の床や壁も、木から出来ている事に
気がつく。

では、みんなで使える遊具を作ってみよう！と切り倒した木から、組み木の遊具を
作成することに。

遊具への加工は子ども達も参加して、木からの物づくりを実際に体験した。

木にやすりをかけ、塗料を塗り……。作業を教えてもらうと、一生懸命取り組んで
いた。

「大きかった木がこんなにいいものになった!」と喜ぶ声があがった。

活動を通して見られた子どもたちの関わり

少人数でのグループで図鑑を使って木の名前を調べると、大勢の中では出てこないよう
な発言、発信があった。

散歩先でも子ども達同士で、「これは何の木?」「この木は図鑑で見たね」などの
やり取りがある。

木こり体験ではグループに分かれ一人ずつ体験を行ったが、大きな木を相手に、

「がんばれ!」と励まし合う姿があった。その経験を経て遊具を作りに参加した為、

「みんなの木だね」と言って喜び合っていた。

保育士の振り返り

普段から子ども達にとって身近な存在であった木が、子どもたちの発言や発信を深めてみんなで探究して
いく事によって、木がより身近で大好きな存在へとなっていったことを感じます。

この活動を通して、一人ひとりが興味・関心を持ったことや、気がついたことを発信すること、それを仲間
で共有していく事の大切さを改めて感じました。

子どもたちの興味・関心が広がり、活動の中では実際に「体験」する機会も設けることができ、
全身、五感を使って経験したことが、子どもたちの中にもしっかりと記憶されていることを感じ、
本物に触れることの大切さを再確認しました。



この木なんだろう～

森の中へ！



木が切れた！！



作業を教えてください



真剣に取り組んでいました